

広報

やまと

1月号

2026 No. 303



表紙 二十歳のつどいの参加者

02-03 年始のご挨拶、二十歳おめでとう

04-05 特集 中学生を再び台湾へ

06-09 シマの話題

10-11 越後先生のしま診療だより、ほか

12-16 お知らせ、大和村長のフォトダイアリー、ほか

年始のご挨拶

さて、今年の村政の基本方針について申し上げたいと思います。

福祉政策と教育環境の充実した村づくりの推進

必要最小限の事業執行と、補助率の高い補助事業導入を基本に、適正な予算執行による健全財政の確立と併せ、会計年度任用職員を含む職員の適正配置と、デジタル化の推進に努めて参ります。



村民の皆様、新年あけましておめでとうございます。

村民の皆様には、輝かしい令和8年の新春をご家族おそろいでお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は国内において、岩手県大船渡市での大規模な山林火災の発生や、野生の熊による被害が相次ぐ中、東北地方を中心に地震の発生など、自然災害の恐ろしさを痛感しました。こういったなか、4月には158の国・地域が参加した「大阪・関西万博」が開幕し、世界のアイデアが未来共創に繋がる一助となり、ここ日本から発信されたことは、喜ばしい出来事となりました。

本村におきましては、「アマミノクロウサギミュージアムくるぐる」のオープンにより多くの方々にご来村頂いていることは、本村の魅力が発信されていると思います。

村民が生きがいのある生活を送るために高齢者支援を進めるほか、子育て支援の充実を図るとともに、「認定こども園整備に向けての検討」を進め、併せて教育環境の整備を進めて参ります。

農林水産業の独自の価値を活かした地産地消・地産外商の推進

農林水産物の安定生産及び、実証農園の充実に努め「合同会社ひらとみ」や「まほろば館」、「いしよむん館」を活用した加工品の商品開発と販売促進に努めて参ります。

高等教育機関との連携による地産地消・地産外商の推進

高等教育機関等の学術的調査研究を幅広く受け入れ、関係人口の創出を図る事と併せ、人口減少対策として、定住促進を推進するうえで必要となる住宅の確保に取り組みます。

官民連携による観光振興と自然保護の推進

「奄美温泉大和ハナハナナビーチリゾート」や「アマミノクロウサギミュージアムくるぐる」を、観光拠点施設として位置づけ、観光振興や自然保護の推進に努めて参ります。

その他、「道路交通網、生活環境の整備促進」、「防災力向上」と関係団体の連携強化による安全安心な村づくりの推進」の合計7つの基本方針を推進し、村民と共に明るく心豊かな「まほろば大和」の創造に取り組むことで、「村民が主役・小さくとも光輝き続ける村づくり」の実現に邁進して参りたいと思います。

そして今年は、関係企業・各種団体と連携を図りながら、自然をいかした奄美大島の西側観光ルートを構築し、世界自然遺産登録地を有する本村の基本理念である「自然と共生し、安全・安心な住みよい村づくり」の実現に向けて新たな気持ちで取り組んで参ります。以上のこと等に、全職員一丸となつて、全力を尽くして参る所存でありますので、村民の皆様のご支援、ご協力を賜りますよう心からお願い申しあげます。

新春にあたり、村民の皆様方の限りないご多幸と、益々のご健勝をお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。

大和村長 伊集院 幼

祝二十歳おめでとう

後列左から

中島 心那(大棚)
稻元 音遊(大和)
前田 和香(大棚)
古謝 ひなた(大和)
屋井 姫詩(大和)
池田 莉音(大和)

奥田 寛太(大棚) 出見 優斗(大和)



令和8年1月4日(日)に「大和村二十歳のつどい」を開催しました。人生の大きな節目となる二十歳。未来への希望を胸に歩み始める若者たちの晴れやかな笑顔と温かな祝福に会場は包まれました。今年の対象者は15名で、そのうち10名が出席しました。旧友や恩師との再会を喜び合う姿が、会場のあちこちで見られました。

自己紹介では、親への感謝、大和村への思い、現在勉強していること、今後の抱負などを思い思いに語ってくれました。

出席者代表は大和村の消防士として活躍中の奥田寛太さん。謝辞の中で、20年間を振り返り、消防士として頑張ることを支えてくれた家族や地域の方々への感謝を語り、「私たちにできることは小さな事かもしれないが、島を盛り上げていき、一度は島を出た人々が帰つてこられる環境を作りたい。それぞれ進路は違うけれど、大和村に貢献できる一員となることを誓います」と決意を新たにしました。

二十歳を迎えたみなさまのこれからのご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



中学生を再び台湾へ

令和7年11月22日～26日、本村事業として2回目となる国際交流事業を実施しました。本事業は、大和村の子どもたちを海外に派遣することで、外国の文化、歴史、風土などを学ぶとともに、現地での交流体験を通じて相互理解を深め、コミュニケーション能力の向上や国際感覚を育むことを目的に、隔年で実施しています。令和5年度に引き続き、現地の中学生との交流は、姉妹校の台北市立建成国民中学校に受け入れていただきました。台湾での本研修に先立ち、大和中学校と連携して行った事前研修では、外部講師を招き、台湾の料理作り体験、簡単な中国語の学習などを通して、台湾への理解と親しみを深めました。

本研修には、2年生9名、3年生5名に加え、大和中の先生3名が参加し、現地での学びをサポートいただきました。市内の自主研修や博物館などの見学を行い、現地の文化や生活を体感する貴重な機会となりました。

建成国民中学校との交流では、英語で大和村と大和中学校を紹介したほか、台湾の生徒たちと授業や昼食を通じて交流し親睦を深めました。

本研修スケジュール

12月22日	出発式、移動日、龍山寺を見学
23日	故宮博物院、原住民博物館、十分、九份を見学
24日	迪化街で自主研修、市内見学（台北101等）
25日	建成国民中学にて交流、移動日
26日	移動日、解散式



屏東県内埔郷と 友好交流協定を締結



屏東県内埔郷

総面積 81.9km²、23の村で構成され人口約5万2千人、約2万1世帯。民族構成は、客家や閩南、排湾族などがあり、多文化が共存する地域として知られている。パイナップル、マンゴー、カカオ豆などの生産が盛ん。



11月21日、伊集院村長が台湾南部・屏東県内埔郷を訪れ、大和村として初めてとなる海外自治体との友好協定を締結しました。内埔郷役場で行われた締結式では、鍾慶鎮郷長と伊集院村長が協定書に署名し、教育・文化・観光・農業など多分野での相互の交流促進を確認しました。今後の交流により地域全体の活性化を目指します。



派遣生の声～様々な気付き・学び・挑戦～

「日本での当たり前は、外国では違うこともある」、「これからもっと英語を勉強して海外に行って、多くの人と交流したい」、「言語が違っても友達になれる」、「日本と台湾の良さはそれぞれ違っていても、どちらも素晴らしい」、「文化の違いを目で確かめることの楽しさを感じた」、「台湾のことをもっと知りたい」、「英語力が必要だと実感した」、「慣れないこともあるけど、楽しみ、学びがあった」、「レストランでお店の人と中国語でやり取りができた！」、「念願だったタピオカミルクティーを一人で買うことができた！」





体を動かしリフレッシュ

12月14日、第21回奄美県体記念グラウンド・ゴルフ大会が開催されました。生涯スポーツの振興・競技力の向上と村外グラウンド・ゴルフ愛好者と大和村民との交流を兼ねて開催しております。全25チームが参加し、和気あいあいと競技を楽しむ姿が見られました。グラウンド・ゴルフは、ルールが簡単で誰でも気軽にできるスポーツで、屋外で体を動かすことで心身のリフレッシュ効果も期待できます。楽しみながら健康づくりに取り組みませんか？



骨の健康を守る予防教室

12月8日、NPO法人喜界島サンゴ礁科学研究所と保健福祉課の共催で、骨粗鬆症予防教室を開催しました。教室では、骨を強く保つためにカルシウムに加え、ビタミンDやたんぱく質をバランスよく摂取することの大切さや、骨折予防につながる運動について講話がありました。参加者からは「参考になった」との声が聞かれました。

令和8年度の総合健診（6月実施）では骨粗鬆症検診も受診できますので、ぜひご活用ください。



防災フェア大盛況

11月9日、消防・防災フェアをアマミノクロウサギミュージアム QuruGuru 前広場で開催しました。2025年度秋の火災予防運動週間に合わせて実施したものです。大和消防分駐所による開催は初の試み。会場には、消防車両の展示や水消火器体験コーナー、救助訓練披露などが行われ、家族連れを中心に約300人が来場。子どもたちは消防車を間近で見たり、体験コーナーに参加したりと、会場は終始にぎわいを見せていました。今後も、地域全体で防災意識を高めていきましょう。



大賑わいのおさかな祭り

11月9日、奄美漁協大和支所前にて、まほろばやまと漁業集落（代表森忠夫）主催の第4回おさかな祭りが開催されました。魚食普及を推進し、水産業の振興と地域経済の活性化を目的として開催されています。

当日は魚介類やエビ汁・カニ汁などの販売や子ども達の魚の掴み取り体験に加えて、今年はお楽しみ抽選会も実施されました。村内外から訪れた多くの来場者は、魚食の魅力に触れながら、おさかな祭りを楽しんでいました。



協力して共存を目指す

12月17日、麻布大学 生命・環境科学部と大和村との包括連携に関する協定が締結されました。この協定は、麻布大学の野外教育拠点であるフィールドワークセンターを活用し、大和村における野生生物に関する研究の推進を通じて、人と動物との共存及び自然環境との調和を探求し、地域社会の持続的発展に寄与するため相互に協力することを目的として締結しました。アマミノクロウサギによる農業被害の低減も期待されます。



梅畠茂和さんに受章伝達

梅畠茂和さんが旭日単光章を受章されました。12月15日に開催された伝達式で、伊集院村長から代理で出席された息子の覚さんに伝達されました。梅畠さんは、平成16年に大和村議会議員に初当選以来、12年間にわたり議会活動に尽力されました。また、昭和43年から29年間、大和村職員として村政に携わり、退職後は大和浜区長を務められるなど、長年にわたり、住民福祉の向上や地域の発展に大きく寄与されてきました。誠におめでとうございます。



ウガンダってどんな国？

11月16日、大和村国際理解講座「ウガンダの動物と文化を感じよう」を大和村防災センターで開催しました。来島したウガンダ野生生物保全教育センターの職員と中部大学の准教授が登壇し、ウガンダの自然環境や野生生物保護の取組、文化について講話を行いました。同センターにおけるヨウム（インコの仲間）の密猟対策や保全活動についても紹介されました。会場にはウガンダのお茶などが用意され、参加者は現地の味を楽しみながら、同国の自然と文化に触れる機会となりました。



懐かしいお月待ち実演

11月15日、第4回長田須磨シンポジウム（奄美文化継承プロジェクト、大和村共催）が大和村防災センターで開催されました。大和浜出身で民俗研究に従事した長田須磨さんの業績を基に奄美文化の継承を目指す取組。今回は、「奄美の女性と食文化」をテーマに、NPO法人奄美食育文化プロジェクト代表の久留ひろみさんが講演を行いました。食文化のひとつとしてお月待ち（ウズィキマチ）の実演と大和中学校の1年生も参加して調理した月見団子の振舞いも行われました。



車両を用いた啓発開始

12月26日、奄美地区郵便局長会からアマミノクロウサギのロードキル防止を目的とした車両用マグネットを贈呈いただきました。これは九州郵便局長協会の地域貢献施策の取組の一環で、過去には湯湾岳の貴重な動植物を守る取り組みとして自動撮影カメラを寄贈いただきました。今回は、ロードキル防止のための「かもしれない運転」を周知するためのマグネットで、奄美本島内の郵便車両や大和村の公用車等に貼りつけて注意喚起や周知活動に連携して取組みます。



ひらとみ朝市にぎわう

12月26日、思勝港緑地広場にて第32回ひらとみ朝市を開催しました。会場には、正月飾りや福元だいこんなどの農産物が並び、今年も販売開始前から多くの来場者が訪れました。今年の福元だいこんは豊作に恵まれ、用意した約400本のだいこんは、次々と来場者に買い求められました。

地域の年末の風物詩として親しまれているひらとみ朝市は、今回も大盛況のうちに終了しました。ご来場いただいた皆さん、誠にありがとうございました。

写真提供：南海日新聞社



全国に先駆け現金給付

12月21日、各集落の公民館において物価高騰の対策として、村民1人につき現金2万円の給付を行いました。同月16日に国の補正予算が成立した物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用するもの。年末年始を迎える前に給付することで、生活負担を軽減する目的で全国に先駆けて給付しました。

なお、給付申請は3月31日まで受け付けています。まだ受け取られていない方は、期限内に申請をお願いします。



くるぐる基金へ寄附

12月20日、アマミノクロウサギミュージアムQuru Guruにおけるクロウサギの保護研究に充てられる「くるぐる基金」に寄付金の贈呈がありました。寄付者は、「紬レザーかすり」の川畠裕徳さんで、自身が販売する商品の販売益の一部を自然保護や伝統文化継承に寄付する取組の一環です。「野生生物保全キーホルダー」の売り上げの一部をご寄附いただきました。伊集院村長から感謝状を手渡し「お心づかいに感謝します。大切に活用させていただきます。」と感謝を述べました。

出初式で地域の安全願う

1月11日（日）、大和村消防出初式が開催されました。村民の安心・安全を祈願し、消防関係者の1年間の安全、士気高揚を図るために毎年開催されています。当日は消防団員による行進、消防訓練、一斉放水、表彰式が執り行われました。冬季は空気が乾燥し、火災が発生しやすい時期です。一人ひとりが火の取り扱いに十分注意し、火災予防に努めましょう。

表彰された方々は以下の通りです。

【県知事表彰】

勤続章 第2分団団員 中山一三さん
勤続章 第2分団団員 中井昭仁さん
勤続章 第2分団団員 民 幸和さん
功績章 第4分団分団長 戸内菊治さん
精績章 第3分団分団長 杉島勇さん

【大島支部長表彰】

功績章 第2分団副分団長 納 孝行さん
勤続章 第1分団副分団長 村上京助さん



やりがい笑顔につながる

「やまとつながるごはん」を冬休み期間中に実施しました。本事業は、児童生徒の長期休業中における孤食を防ぎ、地域のつながりを育むことを目的に、無償で昼食を提供するもので今年度は夏休みと冬休みに計14回実施しました。この日も子どもたちがおかわりをしながら、笑顔で食事を楽しむ姿が見られました。

本事業を支えたのは、24人のボランティア調理員の皆さん。当初から参加された吉本美幸さんは、「調理員みんなで子どもたちが喜びそうなメニューを考える時間も楽しく、何より子どもたちが笑顔で食べてくれるのがうれしかった。次回もぜひ参加したい」と話します。また、重野弘乃さんは、「家庭や子どもたちの助けになるだけでなく、シルバー世代にとっても生きがいにつながる取り組み。少しでも力になれたらうれしい」とやりがいを語ってくれました。参加してくれた皆さん、ありがとうございました！





保健福祉課

元気の時間

大和村民の元気のために
保健福祉課から元気情報を
毎号お届けします！

生活習慣病予防の鍵と「見える化」

私たちの毎日の選択は、気づかぬうちに将来の健康を形づくっています。生活習慣病とは、食事や運動、休養、喫煙、飲酒といった日々の生活習慣が深く関わって発症・進行する病気の総称です。がんや脳梗塞、心筋梗塞、糖尿病、肝硬変など、その範囲は広く、大人だけでなく子どもにも起こり得る身近な問題です。

予防の鍵は、特別なことではなく、生活習慣を整えることにあります。その指針として知られるのが「一無・二少・三多」。たばこを吸わない「無煙」、腹八分目と適量飲酒の「少食・少酒」、そしてよく動き、よく休み、人や物事と多く関わる「多動・多休・多接」です。

とはいっても、当たり前になった習慣を変えるのは簡単ではありません。多くの人にとっての転機は、家族や知人の病気、自身の体調不良、加齢による

衰えの実感、そして健康診断や人間ドックの結果を目の当たりにしたときに訪れます。結果を知ることを怖がりますが、体の状態を「見える化」することで、自覚症状のない段階で異変に気づき、早期治療や生活改善につながります。早期発見が治癒率を高める病気も少なくありません。生活習慣病予防の鍵と「見える化」を大切にし、健やかな人生を歩んでいきましょう。



新年あけましておめでとうございます。

村民の皆さんにおかれましては、穏やかな新年を迎えたことを存じます。日頃より大和診療所の診療にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

診療所は、病気を治療する場所であると同時に、日々の暮らしの中で生じる小さな不安や心配事を、気軽に相談できる場所でありたいと考えております。「この程度で受診してよいのだろうか」と迷われることもあるかと思いますが、そうした時こそ、遠慮なくお越しただければと思います。

救急対応を含め、村の皆さん安心して生活を続けられるよう、医療の面から支えることが私たちの役割です。診療所の職員一同、顔の見える医

療を大切にしながら、一人ひとりに寄り添った対応を心がけてまいります。

本年も、村民の皆さん少しだけ安心して毎日を過ごせるよう、日々の診療はもちろん、健康づくりや予防の視点も大切にしながら取り組んでまいります。体調のこと、健康のこと、どんな小さなことでも構いませんので、どうぞお気軽にご相談ください。

本年が、皆さんにとって健やかで、笑顔の多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



新年のご挨拶

文 / 医師 越後 整



クロウサギ身体能力試験に取組んでいます

アマミノクロウサギは様々な保護の取組みにより生息数が回復しています。一方でロードキル（交通事故）や農作物被害などの新たな問題も出てきています。特に令和7年のロードキル件数は過去最多。1年間で156頭ものクロウサギが交通事故により命を落としました。

これらの問題解決には、クロウサギがどんな動物なのかを知ることが大切です。どのくらいの身体能力を持ち、視覚や嗅覚などの感覚を使って世界をどのように感じているのかを知り、クロウサギの目線になって対策を行うことが問題解決の近道になります。

そこで、くるぐるでは飼育している個体に協力してもらい、クロウサギの知られざる能力を明らかにするための試験を始めました。

第一弾として、飼育場に設置した防獣ネットに

インスタ



HP



アマミノクロウサギミュージアム Quru Guru の取組等を紹介していきます。

対してクロウサギがどうアプローチするのかを調べています。高さ40cmのネットだと、クロウサギは助走無しで軽々と飛び越えますが、50cmでは、飛び越えるだけでなくネット下の隙間をくぐる、ネットを噛み切るといった行動が観察されました。障害物の高さや状況により突破方法を臨機応変に変化させる、クロウサギの能力が垣間見えた瞬間でした。

問題解決に向けた試験は始まったばかり。ロードキルや農作物被害対策に活かせるよう、これからも取組みを地道に進めていきます。



今年も「まるごと満喫キャンペーン」大人気！

文 / 三田もも子

島内の方が大和村を良い訪問先として認知してくれるようになったら嬉しいですね。

今回の結果を受けて、来年以降をどうしていくか協議会の中でも話し合い、お客様と観光事業者の双方にとって良い方法を探っていきたいと思います。



大和村集落まるごと体験協議会の活動サポート

日本
一
や
ま
つ
く
り
ご
く
る
の
村
を
め
ざ
し



冬のオフシーズンに、村内の観光事業者を支援する目的で開催されているこのキャンペーン。宿泊代5,000円、体験4,000円、飲食1,000円がそれぞれ割引になり全部使うと最大10,000円割引になるもので毎年500人あまりの方にご利用いただいています。今年は早々に売り切れるのを避けるために予約開始の日を2回に分けましたが、両日ともに即日完売となる驚きの結果でした。

今回はじめて、宿泊を伴う必要をなくして、体験や飲食のみでも参加可能としました。申込者の傾向としては、島内のリピーターの割合が90%以上と高くなり、体験と飲食が増えました。

大和村は小さな村で観光事業者も多くはないですが、それでも旅行先として良い物をたくさん持っていると思います。



ミカンコミバエ セグロウリミバエ

にご注意ください

これらは、東アジアなど海外から飛来し、農作物に被害を与える昆虫です。

生産者や家庭菜園をお持ちの方、庭に果樹などをお持ちの方は、これらのハエが果実に卵を産み付け、幼虫が寄生する可能性があります。まん延すると、発生地域の果実は移動制限や廃棄処分になることがあります。

—ミカンコミバエ—



体長約 7mm

カンキツ類、スモモ、マンゴー、パッションフルーツ、カキ、ビワ、トマト、ナスなどに寄生します。熟した果実を好みます。

—セグロウリミバエ—



体長 8~9mm

ニガウリやカボチャ、キュウリ、ヘチマ、冬瓜、などのウリ科全般、トマト、ピーマン、唐辛子、グアバやドラゴンフルーツ、パパイヤなどの果物に寄生します。

▲発生やまん延を防止するために、下記のこと注意してください

①適切な防除を しましょう

農薬散布など適切な害虫防除・栽培管理をしてください。
(農薬用薬剤については、産業振興課までお問合せください。
使用例：ダントツ水割剤 2000 倍)

②不要な果実を放置 しないでください

落下した果実は、地中に埋めるか、ビニール袋に入れて処分してください。収穫期を迎えた野菜や果物は、収穫遅れのないよう適期収穫をお願いします。

③島内消費に ご協力ください

現在、鹿児島県ではこれら作物の移動は規制されていますが、可能な限り島内で消費していただくようお願いします。

④関係機関へ連絡 してください

寄生が疑われる変色・変形した果実を見つけたら、速やかに関係機関まで連絡ください。

10月から村内各地でセグロウリミバエ種群の侵入が確認されています。産業振興課では、門司植物防疫所と共に誘引剤と殺虫剤を含ませた木質繊維の板「テックス板」の設置や、ベイト材（殺虫剤+たん白加水分解物）のスポット散布を行い、再侵入を防いでいます。

お問い合わせ先

門司植物防疫所名瀬支所 0997-52-0459

鹿児島県大島支庁農政普及課特殊病害虫係 0997-52-0299

大和村産業振興課 0997-57-2153



←バーコード読み取り機能付き携帯電話をご利用の方はここから大和村ホームページへ簡単にアクセスできます。それ以外の方は直接 URL を入力してアクセスしてください。
(<http://www.vill.yamato.lg.jp>)

発行・編集 大和村役場企画観光課
〒 894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜 100 番地
TEL 0997-57-2117 FAX 0997-57-2161
mail:kikaku@vill.yamato.lg.jp
<http://www.vill.yamato.lg.jp>